



身近なところから

富山市立山室中学校 3年 高島 佑衣

私はテレビを見て、たくさんの人が困っていたり、助けを求めているんだと思います。例えば、お金で困っている人、仕事や交友関係で悩んでいる人などなどいろんな人がいます。実際、私もそうでした。

私は小学生のころ、ずっと本気で友達にぶつかれないでいました。本音を言ってしまうと、相手を怒らせたりしてしまうのではないかと思ってしまうし、嫌われたくないという気持ちもありました。だから、小学校生活は宿泊学習や運動会など楽しい思い出もあったけど、毎日が楽しい日々ではありませんでした。私は小学校生活をふまえて、中学校では変わってみようかなと思い、本気でぶつかるようになりました。そして、友達との会話もはずむようになり、学校に行くのが楽しくなりました。そうやっていくうちに、相手が今、何をしてほしいのかも少しずつ分かるようになっていきました。それで私が、

「手伝おうか。」

と言うと友達は、

「うん。ありがとう、助かる。」

と、言ってくれるので、自分も手伝ってよかったなと思うし、相手の喜ぶ顔を見ると、うれしくなりました。

今のこの世界はいいニュースもあるけど、悲惨なニュースもあります。たとえば、殺人などのニュースです。

こういうニュースが流れるのは相手の気持ちを考えていないからだと思います。気持ちが分かっていたら、もしかすると和解できたかもしれないし、相手の親族がどういうふうにいるのかも分かっていたかもしれないかもしれません。もし殺してしまったとしても、ずっと自分を苦しめてしまうかもしれないので、こういうニュースを見る日がなくなればいいなと思います。

私はこのことから、相手の気持ちを考えることはとても大事だなと思いました。気持ちだけでなく、相手が話しているときはちゃんと目を見ながら相づちもうちながら聞くと話しているほうは、話してよかったなと思ってくれるのだと思いました。だから、これからも続けていきたいと思っています。

こんな風に困っている人が世界にはたくさんいると思います。未来が明るく楽しくなるように、私は身近なところから、人を助ける仕事をしていきたいと思っています。